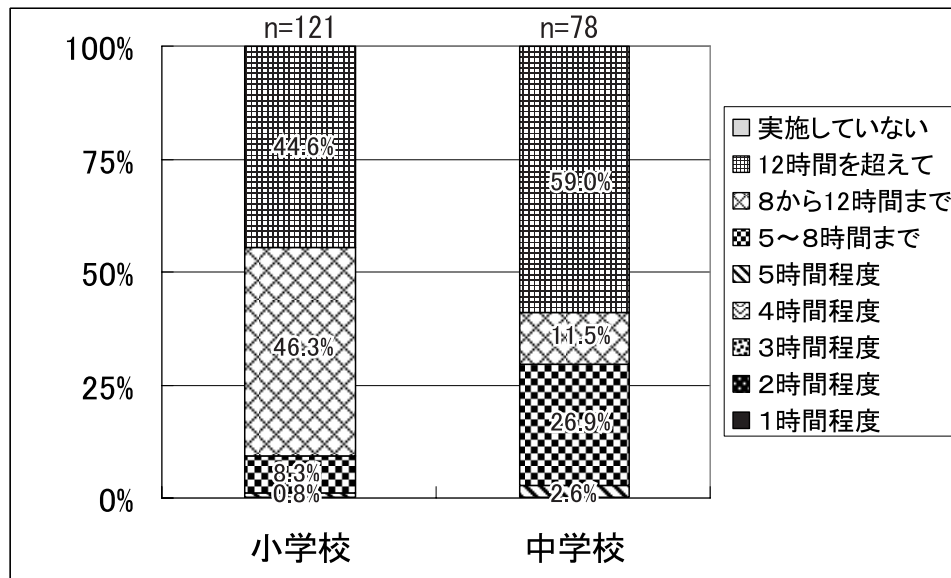


3 難聴特殊学級

(1) 交流及び共同学習の実施状況について

①実施状況

図Ⅲ 3 - 1 に難聴特殊学級に在籍する児童生徒の交流及び共同学習の実施状況を示した。



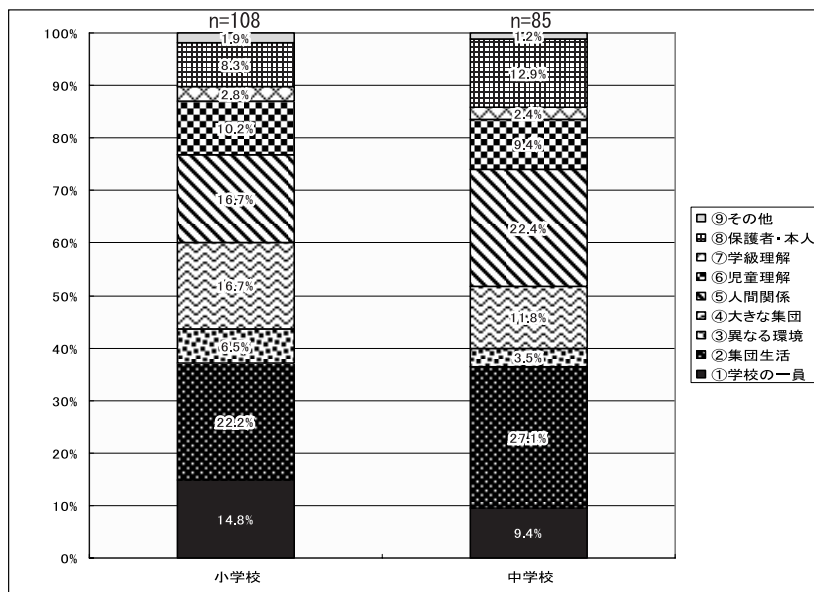
図Ⅲ 3 - 1 実施状況

小学校、中学校とも、全員が交流及び共同学習を実施していた。その内訳を見ると、小学校では、「8時間から12時間まで」と「12時間を超えて」がほぼ同じ割合で約45%ずつであった。中学校では「12時間を超えて」が6割弱、次いで「5～8時間まで」の順であった。今回の調査では小学校、中学校とも全員が「5時間程度」を超えて実施していた。

②目的・ねらい

交流及び共同学習の目的・ねらいについて、その他を含む10の選択肢の中から、特に重要と思われるものを3つ回答してもらった結果を図Ⅲ 3 - 2に示した。

小学校、中学校ともほぼ同様な回答傾向であった。小学校、中学校ともに「②集団生活で社会性を培う」「⑤校内でのつながりや人間関係を形成する」「④より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う」の順に回答が多く見られた。これらのうち、「②集団生活で社会性を培う」「⑤校内でのつながりや人間関係を形成する」は小学校よりも中学校の方が回答割合が大きかったが、「④より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う」は小学校の方が回答割合が大きかった。小学校では、どちらかと言えば学習を重視し、中学校ではどちらかと言えば社会性や人間関係を重視しているとも考えられる。

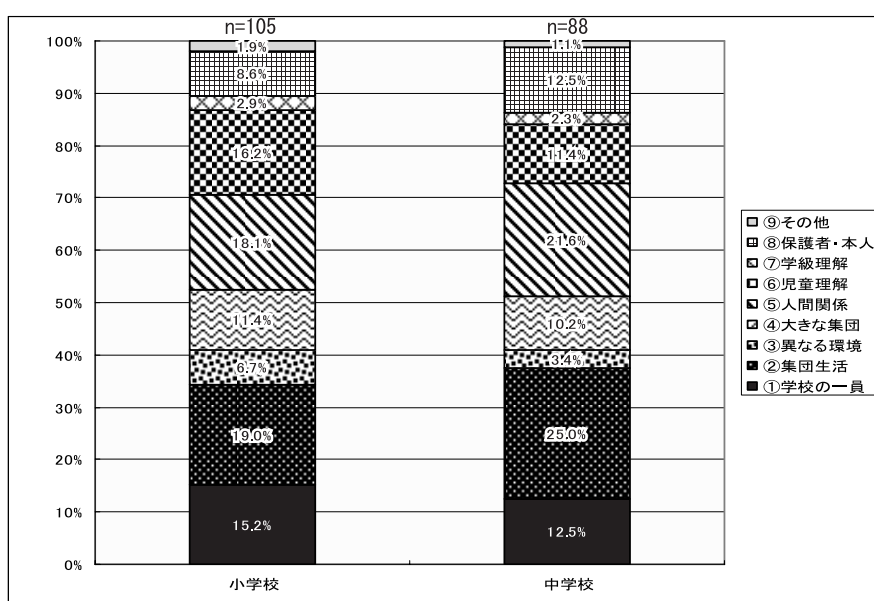


図Ⅲ 3-2 目的・ねらい

③ 成 果

交流及び共同学習の成果についての他を含む 10 の選択肢の中から、あてはまるものを 3つ回答してもらった結果を図Ⅲ 3-3 に示した。

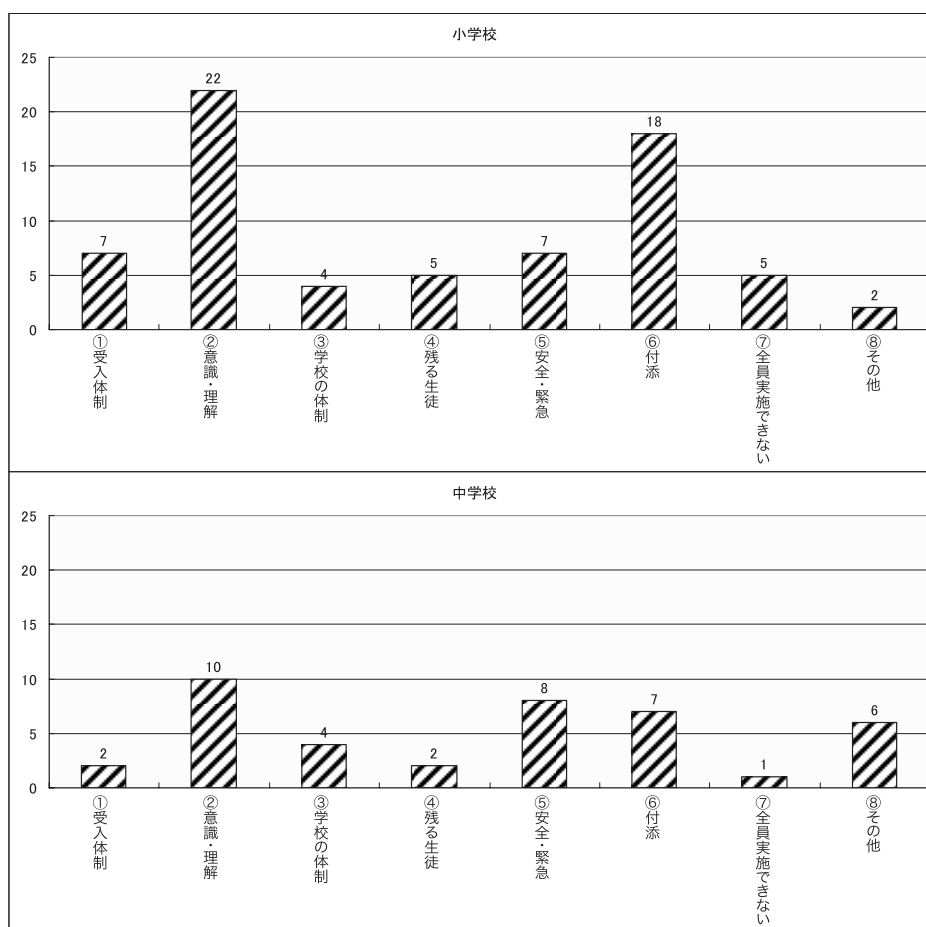
小学校、中学校とも「②集団生活で社会性を培うことができた」「⑤校内でのつながりや人間関係を形成することができた」が多く、目的・ねらい回答と対応する傾向となった。しかし、以後「①学校の一員であることを互いに確認できた」「⑥特殊学級の児童生徒について理解してもらえた」の順に回答が多く、目的・ねらいの回答とは異なる結果となった。



図Ⅲ 3-3 成 果

④課 題

交流及び共同学習の課題についてその他を含む 10 の選択肢の中から、あてはまるものを全てを回答してもらった結果を図Ⅲ 3 - 4 に示した。



図Ⅲ 3 - 4 課 題

小学校、中学校とも「②交流先の学級の担任や児童生徒の意識や理解について」が最も多く回答された。以降、小学校では「⑥特殊学級担任の付き添いの問題」「①交流先の学級の受け入れ体制について」「⑤安全確保・緊急対応の問題」の順、中学校では、「⑤安全確保・緊急対応の問題」「⑥特殊学級担任の付き添いの問題」の順で回答が多かった。

(2) 交流及び共同学習における児童への配慮の実際

次の3つの条件にある児童生徒1人（以下Aさんと記す）を選び、Aさんに対する交流先での配慮の実際について記述してもらった結果をまとめた。3つの条件とは。通常の学級との交流で、教科学習の経験がある、在籍する児童生徒のうち、もっとも高学年である、障害やその程度は問わない、であった。自由記述を整理し、特徴的な回答内容を以下に抜粋して列挙する。

① Aさん自身への配慮

- ・ Aさんへの話し方の配慮
- ・ 口元を見せる。 ・ ゆっくり話す。 ・ 口形がわかるように話す。 ・ 正面から話す。

- ・耳元で大きい声を出さない。
- ・話が聞きとれているか表情やしぐさを注意して見る。
- ・音声言語以外の手段の活用
- ・板書をていねいにする。 ・板書を多くする。 ・筆談をする。
- ・身振りを加える、できれば手話をつける。
- ・FMマイクを使用する（教師、児童とも）。
- ・一斉指示の後、個別に指示。
- ・「難聴生徒の理解と配慮」として職員会議・校内研修で配布【中学校】。
- ・ノートテイク（学級に係がいる）、指文字を使える生徒がクラスに数人いる【中学校】。

②施設設備など環境への配慮

- ・騒音への配慮
- ・使用済みテニスボールをいすや机の足につける（「全校の児童」も）。
- ・机・椅子に防音マットを取り付けている。
- ・補聴システム
- ・集会時は、赤外線補聴システムをつける。
- ・交流学級にもFM送信機を常備し、交流学級担任も使用している。
- ・座席の位置
- ・席を一番前にして話が伝わりやすいようにしている。
- ・座席は、教室全体が見渡しやすい位置にしている。
- ・座席を前に置き窓側にする。
- ・板書が見えやすいよう配慮している。

③学級の他の児童への働きかけを通して行う配慮

- ・Aさんの聞こえに対する配慮
 - ・Aさんへの話し方、話しかけ方について伝えておく。
 - ・話して分からないような時は、誘導するように。
 - ・後から話しかけない。前にまわって声かけをする（顔をみて）。
 - ・どこの位置に座わると情報を得やすいかを教える。
 - ・FMマイクの使い方を伝えておく。
 - ・年度初めに、本人から話をさせておく。
- ・Aさんの障害に関する理解
 - ・補聴器をしていることを伝えておく。
 - ・「難聴」についての理解する時間を設定して、交流学級の子どもたちにどのようなコミュニケーションが必要なのか指導した。
 - ・学級全体にAさんの障害を理解させ、どう対応すればAさんにとってよいか考えさる。
- ・Aさんの行動面への配慮
 - ・Aにやさしく接することのできる子を周囲に配し、一緒に行動してもらう。
 - ・グループ作りの時のメンバーに配慮する。（面倒見のよい友人）
 - ・キューサインの資料を1年全学級に掲示【中学校】。

- ・指文字など伝える生徒には積極的に使うようにしたり、簡単な手話など教員から教えたりしている【中学校】。
- ・1、2年の時は友達参観をして難聴について話したり、補聴器体験をした【中学校】。
- ・本人から配慮についていわせる。他の者にはあまり意識過剰にならず話し方を配慮させる【中学校】。
- ・手話通訳（担任）がつく。事前に資料を渡す（あいさつ原稿、演劇台本等）。

④その他

- ・Aは全校児童の前で作文発表の時、自分が難聴で聴きとりにくいこと、発音がおかしいかもしれないことを自ら述べた。
- ・普段から手話に親しむことができるように、朝の会の話の中で取り上げたり、学級通信で保護者にも伝えたりしている。
- ・1学期に難聴学級で「ともだち参観」を実施している。難聴学級でA児が学習している様子を見てもらったり、きこえのしくみや配慮してほしいことなどを、交流学級の友達に話をしている。全員に補聴器体験、読話体験もしてもらっている。
- ・給食、そうじ、学校行事など、個別に指導が必要である場合、特学担任がすぐ動けるよう連携をとりながら進めている。
- ・集会時、各種行事には、必ずノートテイク及びパソコンノートテイクを行っている【中学校】。
- ・視聴覚教材の場合は、字幕を必ずつける。英語のヒアリングは、原稿速読にかえる【中学校】。

（久保山茂樹）